場所　京都府京都市

面積　19.3ha

活動目的　太古より信仰の対象である山の自然と芸術的作品とも言える庭園を未来永劫適切に保全し、その文化的、自然的価値を広く国民に発信し続けることを主目的とする。

サイト概要　松尾大社は京都最古の神社で、太古この地方一帯に住んでいた住民が松尾山の神霊を祀って、生活守護神としたのが起源とされている。文武天皇の大宝元年（701年）に秦氏が松尾山の山麓に社殿を創建してより皇城鎮護の社として、近世以降は醸造祖神として多くの人々の尊崇を受けている。当該サイトはこの松尾大社の社殿、参道、庭園及び社叢林を含む境内地である。庭園は昭和50年（1975年）に作庭家重森三玲によって造営されたもので、石組みを基本とするが、河川、池泉、曲水を擁し、サツキ、ヤマブキ、ミヤコザサ等の植物も配されており、昆虫類、爬虫類等の生き物が見られる。社叢林のほとんどは安定したコジイーサカキ群落の自然林で、環境省の「特定植物群落」に選定されている。

土地利用の変遷

当該サイトは太古より神霊を祀る場とされ、神社の境内地として造営、管理されてきた。特に社叢林はほとんど人為を加えることなく、天然の状態を保ったまま現在に至っている。

サイト周辺の環境

当該サイトは京都西山の一角である松尾山の東斜面とその山麓である。山麓部は山裾に沿って住宅地、寺院、神社が立ち並ぶ落ち着いた町並みがつづく。山地部は松尾山の南北と西側に広大な山地が広がり、照葉樹林に覆われている。

アピールポイント

松尾山の社叢林は原生のシイ林として貴重であり、一般の立ち入りを禁止し、長期にわたって自然の推移による安定した森林生態系を保っている。また、地元猟友会の協力によりニホンジカ、イノシシ等の害獣駆除（くくりわな）を隣接林で実施し、社叢林への侵入を防止している。

生物多様性の価値

価値（１）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

当該サイトに含まれる社叢林は特定植物群落（環境省）「松尾大社のシイ林」に選定されている。

【選定理由や内容】

選定基準A:原生林もしくはそれに近い自然林　及び　選定基準E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

写真の説明：社殿後方に広がる樹林

写真の説明：林内の様子

生物多様性の価値

価値（2）原生的な自然生態系が存する場

【場の概況】

当該サイトに含まれる社叢林の大部分はコジイ林で、一部にヒノキ、スギの植林及びアカマツーコシダ群落が見られる。コジイ林は、コジイ、サカキ、アラカシ、タカノツメといった組成で、きわめて多様性が低い。林間閉鎖し、安定したコジイーサカキ群落である。また、アカマツーコシダ群落は遷移が進めばコジイ林になると推察される。社殿後方に広がり、荘厳で、地域の自然林として文化的にも学術的にも重要な景観を呈している。

【主な植生】

当該サイトに含まれる社叢林の大部分は、環境省の現存植生図ではカナメモチーコジイ群落で、一部にモチツツジーアカマツ群落とスギ・ヒノキ・サワラ植林が存する。なお、コジイ林については1977年の土井林学振興会による調査ではコジイークロバイ群集、2024年の社叢学会による調査ではコジイーサカキ群落とされている。

【植生自然度】

当該サイトに含まれるコジイ林は植生自然度９（カナメモチーコジイ群落）に該当する。

【確認された主な動植物など】

コジイ、サカキ、ヒサカキ、アセビ、ムクノキ、ソヨゴ、ネジキ、ヤマザクラ、クロバイ、カナメモチ、モチツツジ、タカノツメ、アラカシ、ネズ

写真の説明：コジイ林内の様子

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

当該サイトに含まれる松尾大社の社殿、参道の存する境内地は多種の高木に覆われるとともに、ヤマブキ、ツツジ、ツバキ等の灌木が多く植栽されている。また庭園は、河川、池泉、曲水を擁し、サツキ、ヤマブキ、ミヤコザサ等の植物が配され、昆虫、爬虫類等の各種生き物も見られる。社殿への参拝は自由、庭園は有料で開放され、参観者は容易に神聖な文化的空間に入るとともに、自然にふれることで感動、精神的充足、教化的効果を得ることができる。また、神社裏の渓流「御手洗川」には冷泉「亀の井」が常時山水を供給し、周辺住民の生活用水の他、醸造家にとっては神聖な水として利用されている。

【主な植生】

社殿、参道、庭園の施設以外の地はイチョウ、クスノキ、シラカシ、スギ等の高木及びヤマブキ類、アオキ、アセビ、ツツジ類、ミヤコザサ等の中低木で占められている。

【確認された主な動植物など】

（高木・亜高木）アカマツ、イチョウ、イロハモミジ、オガタマノキ、キンモクセイ、クスノキ、クロガネモチ、サカキ、シュロ、シラカシ、シロダモ、スギ、ツバキ類、ネズミモチ、ヒノキ
（中・低木）アオキ、アセビ、アラカシ、イロハモミジ、ウメ、ツツジ類、ツバキ類、ナンテン、ノキシノブ、マンリョウ、ヤツデ、ヤマウルシ、ヤマブキ類、ミヤコザサ
（哺乳類）ニホンジカ、イノシシ
（鳥類）コゲラ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ
（爬虫類・両生類）ニホンヤモリ等
（昆虫類）チョウ類：クロアゲハ、アオスジアゲハ、／バッタ類：モリオカメコオロギ、カネタタキ／トンボ類：ハグロトンボ、オオシオカラトンボ／カマキリ類：ハラビロカマキリ／カメムシ類：ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ
（魚類）ニシキゴイ
（甲殻類）サワガニ
【外来種として】アライグマ、ミシシッピアカミミガメ

写真の説明　松尾大社正面から社叢林を見る

写真の説明：霊泉「亀の井」

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

①社殿後方の松尾山斜面は大部分が安定したコジイ林で、一部にヒノキ、スギの植林及びアカマツーコシダ群落が見られる。林内には小河川、ギャップ地、林縁部に崩壊地がある。

②庭園の一部は池泉庭園となっている。

【確認された希少種】

①の一部には、京都府RDBに掲載された希少なつる植物が生育している。

②の一部には、京都府レッドリスト・環境省RDBに掲載された希少なカメ類が生息している。

写真の説明：境内地の池泉庭園

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

（活動の目的）
境内地（庭園）及び社叢林を未来永劫適切に保全し、その文化的、自然的価値を広く国民に発信し続けることを主目的とする。

（活動計画の内容：境内地及び庭園）
年間を通じて境内地及び庭園の草本、樹木等の管理、清掃等を実施する。
2月　境内除草清掃作業
3月　ヤマブキ手入れ作業
4月　上古の庭ササ刈り込み作業
6月　蓬莱の庭手入れ作業
9月　境内除草清掃作業
10月　境内除草清掃作業、河原造園、上古の庭ササ刈り込み作業
11月　境内除草清掃作業
12月　境内除草清掃作業
その他、境内地及び庭園清掃は毎日、除草清掃作業を各月2回実施

（社叢林の管理）
社叢林は原則自然の推移に委ねることとしているが、増加傾向にあり、森林生態系に大きな影響を及ぼす可能性のあるニホンジカ、イノシシについては隣接林において毎年駆除を実施し侵入防止を図る。また、月に２～３度は職員が見回りに入林し、地形、植生、河川の状況を把握する。

（年間活動実施部署）
境内地及び庭園の管理は大社職員全員が交替で実施。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
境内地及び庭園の景観要素であるサイト内の動植物全般を常時観察する。社叢林については月に２～３度職員が見回り、地形、植生、河川（御手洗川の水流等）の状況を把握する。特にニホンジカ、イノシシの影響、希少植物の生育状況については注視していく。

【モニタリング場所】
サイト全体

【モニタリング手法】
境内地及び庭園の状況は通常の庭園管理にあわせて観察。社叢林は月２～３度のペースで見回りのため入林し、観察する。また、社叢学会等学識者による植生調査等を申し出に応じて受け入れる。

【モニタリングの実施時期及び頻度】
境内地及び庭園は通年。ほぼ毎日。社叢林の巡回は月２～３度。学識者による調査を随時受け入れる。

【モニタリング実施体制】
原則職員で実行する。学術調査は学識者の依頼に応じて受け入れる。